

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	津市戸木町4113-11		
自己評価作成日	平成 26年 8月 26日	評価結果市町提出日	平成26年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470600368-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470600368-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26年 9月 12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年4月に開設、今年で10周年を迎えることが出来ました。今までに多くの方のご協力に支えられここまで来ました。これからも、さらに努力を重ねていきたいと思っています。また、ひまわりの理念であります「和顔愛語」で接するよう日々努力をしています。利用者様の皆さんは認知症の症状が顕著になってきていますし、ADLの低下も進んできています。認知症の理解を深め、利用者様の心に寄り添った支援が出来るよう取り組んでいきたいと考えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、風早団地と星の丘団地の後方に立地し、木立に囲まれて自然豊かな環境である。付近には、障害者施設の関係者が管理している「花園」があり、四季折々の花が咲き、花見客で賑わう中を、利用者は日々の散歩コースとして皆で散策して、季節感を体感している。建物は、3ユニットで、2階から4階に各ユニットがある。短期入所施設が隣接し、行事等を合同で行い、協力体制を築いている。付近にある高齢者施設群には、利用者が重度化し家族が特養ホームへ入居を望んだ際に紹介している。管理者と3名のユニットリーダーを中心に、職員一同が、「和顔愛語」を理念とし、利用者に笑顔で優しく丁寧に接し、日々理念の実践に努めている。毎月「ひまわり通信」を発行し、紙面に利用者全員の顔写真が載るように配慮して、家族に送っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位の介護に努めていますが、困難な出来事も多々起こってきます。家族様、職員と連携し対応するよう心掛けています。	「和顔愛護」を理念とし、玄関、各階フロアー、スタッフルームに掲示したり、管理者は会議で職員に伝えている。スタッフは介護の原点と受け止めて理解し、利用者に笑顔で優しく丁寧に接するよう心掛けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の一員として交流を心掛けている。更に、相互理解が深まるよう努めたい。	事業所は星の丘団地自治会に加入し、役員が運営推進会議に出席し、関係を密にしている。事業所の夏祭りの案内を、戸木地区全域に新聞広告で配布し、大勢の参加者と利用者が共に祭りを楽しんだ。毎年実施し、地域の恒例行事として住民にも定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の認識について、地域の方々に理解していただけるよう努めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会の役員、包括支援センターの職員の参加を得て会議を開催しています。事業内容を報告しサービス向上に努めている。	運営推進会議は、関連事業所のグループホームと合同で夜間に開会しており、家族の出席を調整中である。自治会役員より、認知症に関する学習をしたいと要望があり、8月にビデオを用いて実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「日頃から連絡を密にとる」とまでには至っていません。協力関係が築けるよう努めたい。	管理者は、市の介護保険課・高齢福祉課・援護課等関係する課に出向いて、利用者の要介護認定更新手続き代行や利用者のサービス等利用に関する相談や手続き等を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要なテーマとして度々取り上げ学習しており、理解、実践に努めている。	身体拘束をしないケアについて、運営規定と契約書に明記し、マニュアルを作成し、全職員に配布して理解を深めている。	年間研修計画を作成し、身体拘束をしないケアに関する内容を組み入れて、計画的に繰り返し学習することで、職員の資質向上が図られ、ケアの質が向上することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	重要なテーマとして度々取り上げ学習しており、理解、実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解はしています。必要に応じて対応していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約、改定等に先んじ、利用希望者、家族、の不安、疑念の解消に努め、十分納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族との面談、面会時などの機会に意見を伺ったり、ご意見箱を利用してもらったり、気軽に話し合う機会を作るよう心がけ、利用者、家族の思いを反映させられるよう配慮している。	家族より個別の利用者のケアに関する意見や要望はある。一部に利用料金の銀行引き落としの導入を希望する意見はあるが、現状では実施困難なため、従来の納金方法で同意を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット毎、毎月の職員会議、リーダー会議における職員の意見、提案を、毎週の会社の代表者との意見交換の場で採り上げ、上申、運営に反映されえるよう図っている。	職員より、散歩コースの砂利道舗装と休憩場を設置した方が良いと提案があり、会議で協議し、散歩コースの舗装と休憩場として東屋の設置が実現した。職員より環境整備に関する意見は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、諸規定、職場環境の整備、点検を行い、よい環境で働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者には、資格取得の援助、研修参加の支援等、資質の向上、レベルアップを図ると共に、学習意欲の喚起に意をそそいでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の場を広げ、資質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事情の許す限り、本人の思い、不安を含め聴くことに努めている。聴く姿勢が信頼の深さを左右する。本人の立場に立った言葉や、やり取りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の思い、希望に隔たりが少なからず見られる。両方の立場の理解に努めながら、聴くことに意を尽くしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までの生活の実態の理解把握に努め、その時点での希望、家族の思いを理解した上で、適切なサービスが提供出来るよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いが、十分に理解されていることが必要である。本人とのよい関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いの中に家族への複雑な思いがある。家族の力が必要とされる機会が多いため関係作りに努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人を含む懐かしい思い出は、心の安定、気持ちの平穩に資するところが大きい。支援に努めていく。	利用者は、近辺の地域に居住している人が多く、子供・孫・親戚・知人等の面会者が多い。面会の際には居室へ案内し、くつろいで談笑できるように配慮している。墓参りや美容院等へは、家族に連れて行ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しく入居されても孤立することのないよう、支え合うように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に、ご家族が相談こられたり、関係が続く場合もある。希望されれば、支援を心掛ける。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話の中から、本人の思いを知った上で援助を選択するよう心掛けている。	職員は2名の利用者を担当し、センター方式を活用して思いを把握している。心情の変化があれば会議で報告している。意思表示が困難な利用者には、思いを家族に尋ね、表情や行動で推測し、会議で統一してケアに当たれるように協議している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを理解することが、本人理解の鍵となる。これらの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の変化に気づくことの大切さを話し合い、注意しあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議を行う前に、あらかじめそれぞれの意見を聞いておくなどして行っている。	3ヶ月毎にモニタリングと評価を実施し、月に1回開会するフロア会議に於いて、計画作成担当者を中心に職員で協議し、必要があれば計画の見直しを実施している。家族や主治医には事前に照会し、意見や要望を計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、業務日誌などの記録、勤務交代時の申し送りなど、情報の共有に疎漏のないよう注意すると共に、実践に齟齬をきたさないよう注意し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化は理解されるが、現時点では、体制面で、即刻対応が困難とおもわれる。想定されるサービスについて検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を出来るだけ把握し活用できるように取り組んでいきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医、かかりつけ医、との連携を密にし、緊急時は言うに及ばず、適時、的確な対応できるように支援している。	現在10名の利用者は、協力医に月に2回往診を受け、他は近隣医師に往診を受けたり、従来の掛かり付け医に家族の協力で通院している。認知症専門病院へ通院中の利用者がいて、初診時や重篤時には職員が家族に同行し、医師に情報提供を行なった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置が無く、協力医との連携が唯一頼みとなるが、現在24時間体制で対応、緊急時を含め、相談、指示が得られる態勢にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医の協力により、緊急時の入院手配等迅速に取れ、利用者は安心して入院加療が受けられる体制にある。病院関係者との、協力関係も良い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医を交え、家族、本人と具体的な方針について説明、意見交換を通して、十分、理解、納得が得られる様、再確認に努める。	重度化した場合、主治医が家族に病状説明をし、事業所で看取り介護を提供するには、条件が未整備であるため困難であることを伝え、家族の意向に基づいて病院等を紹介する等、必要な支援を提供している。特養ホーム等へ入所を希望する家族には、早い段階で入所手続き援助を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の業務を行いながら、いざという時のために実践力を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	少い職員での災害時対応は、至難を極める。常日頃から避難、通報、初期消火について話し合っている。	4月に夜間の火災を想定した避難訓練を実施しており、10月に消防署指導により併設施設と合同で初期消火と避難訓練を実施する予定である。避難所は事業所の駐車場であり、4階から利用者を非常階段を伝って誘導するのは大変である。	毎年計画に基づき実施している避難訓練について、実施後に必ず評価を行い記録し、次回の訓練に活かし、繰り返し訓練を実施することで、職員が災害を意識して真剣に訓練に臨むことを期待する。また地域との協力体制が構築できるように望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保については、全室個室であり、日常生活上ほぼ保たれている。言葉かけには十分配慮している。	利用者に対する言葉かけに最も気を配っており、人前で排泄に関する言葉かけは避けている。利用者が活動中に「何でできないの」と、非難的な言葉は禁句としている。面会者は居室へ案内し、プライバシーを確保するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の意義について、理解、認識を深め、対応において、これを、ないがしろにすることのないよう、自己決定の支援に努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先せず、利用者側の思いに添えるよう考える習慣を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しみたい気持ちを尊重しつつ、本人の希望や、思いに添えるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の中で食事は楽しみの一つである。毎日献立をボードに書き入れるなど取り組んでいる。また、オリジナルメニューも行い楽しみとなるよう支援している。	食事時の利用者の席を決め、落ち着いて食事が出来るように配慮している。献立・食材は、業者委託であるが、調理は職員が行なっている。2ヶ月に1回位、利用者が職員と共に1日中の食事を作っており、彼岸におはぎを作る予定である。また、回転寿司等で外食をして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分量の確保については、医師の指導によりながら、常時摂取量の記録を参考に、適量を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの能力に応じ、それぞれに適したの支援、援助の方法で口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向けた取り組みを行っている。時間を決めての声かけ、食事前後や就寝前の誘導を行い、失禁をなくすよう支援している。	各室にトイレがあり、現在排泄動作が自立している利用者は、27名中9名いる。他はリハビリパンツ等を使用しているが、声かけをしてトイレに誘い排泄している。夜間のみ紙おむつ使用者が2名いる。また、排便状況をチェックし、便秘対策を講じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活習慣を見直したり、食事の形態を検討したり、体を動かすことを増やすなど、平常の観察を続けながら、それぞれにあった対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれの気分、希望に沿った入浴の時間を考えている。利用者の心身の状態の変化など考慮し支援している。	日曜日を除き毎日入浴できるが、1人当たり週3回程入浴している。1人ずつお湯を入れ替えているため清潔である。立位が困難な利用者の入浴介助は、2人体制で実施している。入浴を拒む利用者には、入浴を勧める電話を家族に依頼し、協力を得て実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ、そのときどきの心身の状況におうじ、意に沿うようにしている。レクリエーションの参加なども、本人の意思、気分、体調を第一義にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの心身の状況の観察を注意深く行い、些細な変化も見逃さないよう職員連携しながら確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが、穏やかな日々が送れる様、心掛けている。趣味、趣向、を知ったり、生活歴、性格の理解などに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	揃っての外出のほか、個々での買い物、気晴らしのドライブ、お花見、懐かしい人との出会い等々に取り組んでいる。家族にも協力を依頼し外出の機会をお願いしている。	日常は周辺を散歩している。散歩は全員で行ったり、個別に利用者の希望で行くこともある。年に4回程、青山高原やとことめの里等へドライブに行き楽しんでいる。法事や墓参り等は、家族に連れてもらっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持を望む人はまれで、それぞれに対応することになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りなど、支援を心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居場所として自室、ホールで過ごすことが多い。ホールに作品の掲示をする等、明るさの演出に心配りをしている。	内装は総て木造で明るく温かみがある。壁面に「ひまわり」の貼り絵や利用者のスナップ写真が飾られて和やかである。オープンキッチンで全体が見渡せ、職員は利用者とは話しながら調理している。廊下に手すり取り付けられて、歩行訓練ができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間に乏しいが、ひとり一人の場所を決め、テーブルを囲んでの利用者同士の交流を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は、好みに合わせ、その人らしい雰囲気や漂わせている。思い出の品々に触れることで、落ち着きと安心が得られているようだ。	各室にトイレと洗面所が設置され、排泄や洗顔等が居室にいながら容易にできる。木造の大きな棚が設置されて、各自がテレビや衣服等自宅から持参した物を置いている。ベッドと寝具一式とエアコンも設置されている。居室から階下の景色が眺められ、ベランダにも屋間は出ることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声かけや、見守りをしながら自立した生活を目指して出来ることは行ってもらうように取り組んでいる。		